繪本通俗三國志

四編

十

へ 21
221
40

東京帝國大學圖書之印
221
40

繪本通俗三國志四編卷之十

目録

玄德斬楊懷高沛
黄忠魏延大争功
落鳳坡乱箭射龐統

繪本通俗三國志四編卷之拾

玄德斬楊懷高沛

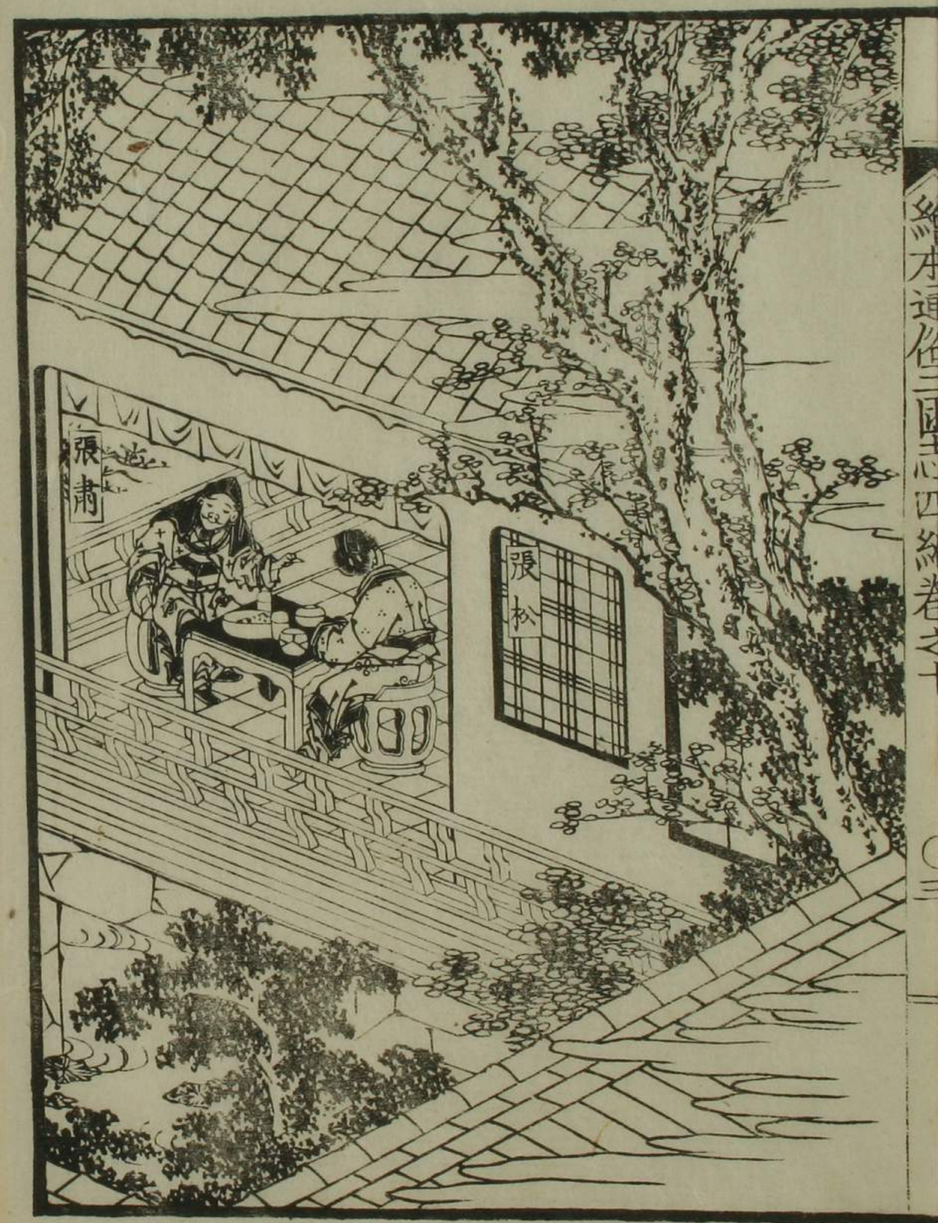
是ときに玄德は葭萌関にありて張魯を拒ぎゐるに曹操呉を攻さ濡須塢にて戰ふ由をきゝ龐統を呼で評議し曹操も勝べ直ちに荆州を取ん孫權も勝とも又進で荆州を攻んと欲されといかゞせんと問ふに龐統が曰君主とおしも憂ひなく孔明とゝに荆州を守る上は曹操孫權に攻るとも必ん恐まろいん君はまた劉璋に書簡を送り曹操大軍を起して呉を攻るゆへ孫權救て荆州を求む之と孫權とは唇齒の國なり救はゞんあるべからず今張魯きとゝに蜀を攻るの沙汰あれども必ん自ら守るの賊くあて

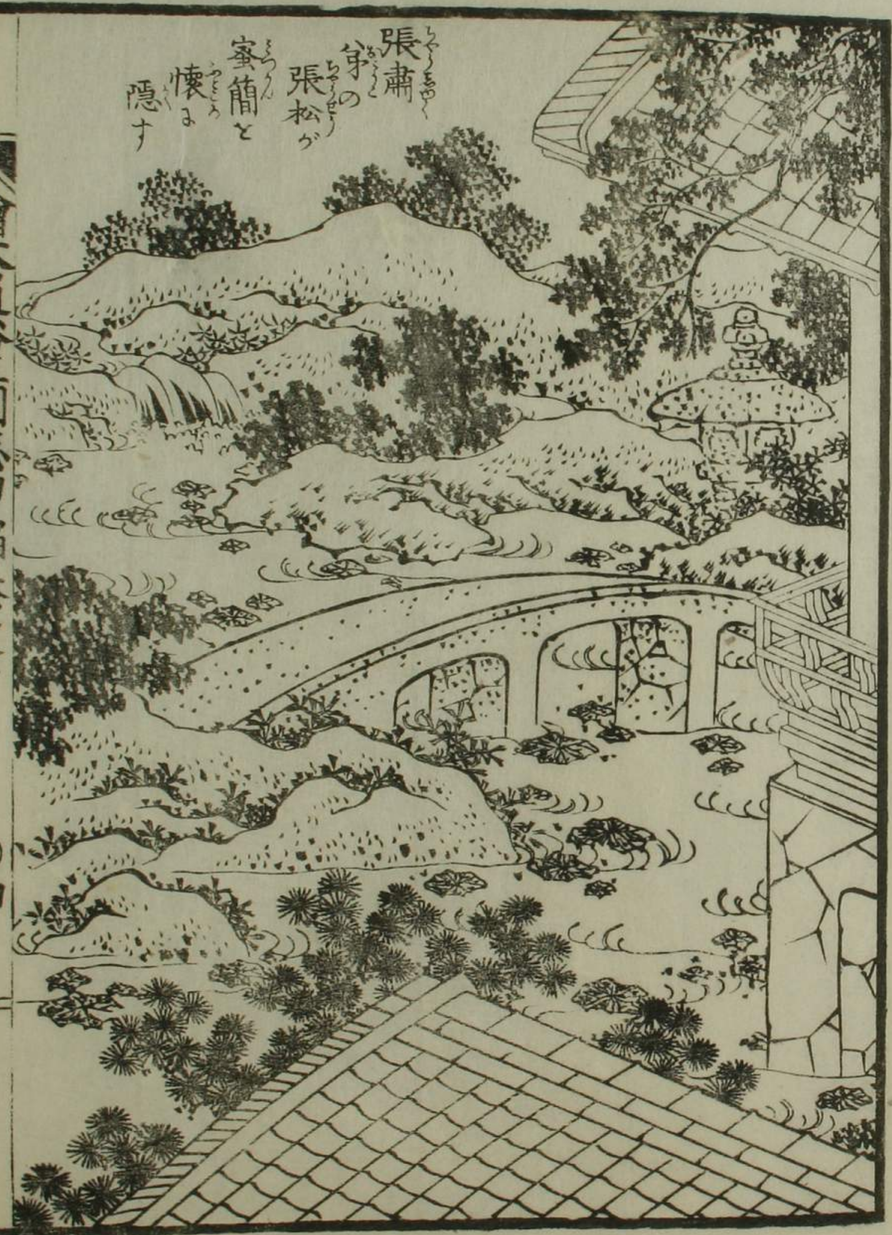
かるぐ〳〵来りひしめきて荆及を回りて孫權と力をあはせ。
とゝに曹操を破らんとゝ思ひきれども兵少く粮足らず。其事
をなさずたゞ孫ぐ〳〵同宗の好をあつくし精兵三四万。兵粮十万石
を合力して人と望む人もしの〻即ち劉璋に書を別に計をふ
さん玄德ふまたび使を成都に遣して使途をいそ
涪水関を通りければ関を守る蜀の大将楊懷高沛二人を
をきくして高沛を止めて関を守らせ楊懷に使者をたゞして
成都に入れまゐ劉璋問て曰く汝いぐ〳〵ふる来る。楊
懷曰く予の使の為に来りし玄德さでに蜀をさりて
より。廣く恩德を施して民の心を懷くされ腹心の病なり。今
又兵を求め粮を借君ゆるゝぞ従ひすまゐ。もしふまを従ひた

まへとき乾ける柴を火の上に加へるがごとし。きうに中
ふう滅ぼしがたからん。劉璋ゲ曰く。ふまを。と。玄德と兄弟の交
をなす。従ひがたしとあるべきに人きゝみ出て曰く玄德
は世の梟雄。もし久く止めをまゐ虎を放りて山に入るなり。
今又兵をあたへ粮を借ばふまを虎に翼を添へ君ゆるぞ
ふたがひなき。諸人ふまをとゝれれば零陵烝陽の人に劉巴字
は子初とゝらんものく黄權もすゝみ出又再三諫めけまゐ劉璋
卒に諫に耳をかたぐひ年老て疲に弱りたる。兵四千人兵粮一万
石絹五千疋その外とこしばへの武具を調へ使者を発して。
玄德に送りけまゐ劉巴速に下知を傳て。楊懷高沛に緊
く。涪水関を守らしむ。劉璋ゲ使者葭萌関に行て玄德

を返簡を呈しければ玄德ひらきこんで大に怒りてこれをくびと
なのりを来りかを費し心を苦しめて汝ぶ為に敵を拒ぐ今ぶ
ちる兵粮を吾でるぶ求めをんぶ為をとりて士卒を激
して敵を討んやらんとをきんぐを割り使の前をて其の返簡を
引ききをんぶ使怕きをどろき急ぎ成都を逃回る龐統が曰く君
ぶ仁義をきりて重しとををんぶ今御心いらん玄德の曰く先生
よろしく料ひをんぶ龐統が曰く某三條の計あり君ををとを択んで
用ひをんぶ只今ををやをを精兵をあらんで昼夜を路をいそぎ直を
成都を襲ぶ一挙を功を成就せんをを上計をり楊懷高沛の蜀
の名將ぶを兵を引を涪水関を守る君をを誘ひて荊州を回ると
告をぶ二人をるらぶを来りて相送らんぶそのとき席上をて是

を殺しまづ涪水の城を取てそのちを成都をむらんをれ中計
をり退いて白帝城を回り荊州を保りてんををを進を取をを
れ下計をり君もし疑ひを抱いて決せぬをの三りの計を用ひ
るべをんを大をる禍を得をんを目前をあり玄德の曰く上計を
をるべを急をして下計を甚ぶ遲しを中計を急をるらぶ遲らず
をををれを從ひんを龐統ぶ曰くをいぶ書簡を劉璋を送りぐ
曹操を今大將樂進を大勢を付て青泥鎮を攻るををぶ急
をり弟の関羽荊州を守の兵を引てをれを拒げども敵をる
をを得ぶををををを速を回てをれを救んとをりををの史
を告やをを詐りを玄德をれを志たがひ即時を成都へ使を
遣して劉璋を告をんる張松成都をありて玄德の荊州を


張肅
張松


張肅
弟の
張松が
蜜簡を
懐に
隠す

へりくだりて。きいて本意なきことなれども。密に書簡を封じて。玄德に送らんとするあり。その兄なる廣漢の太守張肅といふものあり。折節用事ありて。来りけるに。張松急なる書簡を袖の中に藏し。相對して物語りなどするうち。その気色常に易りければ張肅なぜと酒宴を始め半酣に至りて。互に盃を取傳るとき。張松おのれが袖の内より。その書簡を落す。張肅きこうに。ひらいて。懐に入れ別まして家に帰り。ひらいて。まことなる其書を曰く

松頓首端拜主君皇叔麾下。昨嘗進言。並無虚謬。何遲太甚逆耳。順守古之人所貴。今大事已在掌握之中。何故欲棄此而回荆乎。使松聞之。如有所失。書呈到日。疾速進兵。以図主業。幸甚。松誓首再拜

張肅これを見て。大いにおどろき。すぐ弟野心と挾んで。国を。玄德にあたへんとす。もし外より洩るべ。門をぐく誅せらるべしとて。直に劉璋に見へ。ありのまを告げるべ。劉璋もいての外に怒り。平生仁義をもつて人を用ゆ。たまゝ計に。今日是のごとくなるべしといふて。武士に命じてきび張松を捕へ。一家の男女一人も残らず。市に生しく。首を刎させきうに文武の大將をあつめ。玄德をいかゞ國を奪ふべきを。汝ホいかゝる計あると。問ふに。黄權ちこを出て曰く。事急なれども。延引すべからず。早く諸石の守に。漢荆に往来の道を塞いで。一人も関より内に入ることなく。用心きびしくなすべし。劉璋これを出たがひ兵とあつめて。俄に諸方に分遣して去程に。玄德が兵と

收て涪城ゑ回り。まづ涪水関と固めたる。楊懐高沛が方へ使を遣し。まづいま兵と收て。荆州ゑ退き回る。明日その関と通るべし。門を開くべしと。楊懐高沛。二人ともに送りの人をたのみ。相議するゑ高沛が曰く。玄徳をかゝら死と送れりまゝ。懐の中ゑ剣を藏し。明日ゑまづ回るを送りて。酒宴の席にて刺殺し。君の患を除くべし。楊懐が曰く。その計きわめて妙なり。物馬なる精兵。二百人を。ちからの人行。その余いとぐくをの関を守らしめんとて。次の日。酒肴を用意して。出むかゝのとき。玄徳ハ大軍を引て涪水の辺ゑ出る人べ龐統馬上ゑ低語て曰く。楊懐高沛がさるよく来て。君を送らんといへゝの底料りがたし。宜く用心をすべし。もし又来らざるんば。早くおもせて。打破らんとて。相待ける忽ち。

陣の風吹来て。馬の前ゑ立たる。帥の字の旗を飜しけるゝ。玄徳の曰く。おれいまる敬言ぞ。龐統が曰くおれハ楊懐高沛が君を刺殺さんとまるゝあるを。天まり敬言ゑ。兵を揃て拒ぎゑ。玄徳おれゑ出たゝがひ身ゑ鎧を重ねて宝剣を帯ゑ。忽ち楊懐高沛酒肴を舁せて来るとやゝ。龐統ゑ黄忠魏延とよび。いま楊懐高沛ホが率ひ来る勢を一人も逃ることなれ箇樣くゝ。ゑせよとて。計をいひ含めゑ。遠く出て相迎へ楊懐。高沛へ。ねて計しゝ。懐ゑ剣を藏して。二人羊を牽酒を舁せて内ゑ入りその辺を伺いるゑ用心ありともゝ人ざりけるを。人の内出をゑ見たりと喜び。玄徳ゑ見へてやけるハ今皇叔の荆州ゑ回りゑ由をきて。些少の礼物を具て。相送るとて。酒肴を獻

ドけまべ玄徳旅ゝて喜び半酣みいこゝて。まゝ〳〵ひとゝまゝ大ゝ
と戮せんとおゝゝと傍の人と退けよといふて。二人ゝ従ゝへ来まる。
二百余人の兵と。こゝ外ゝ追出ー。よれやゝのどゝ曲ゝの取へよと。
よゝり見ゝ幕の陰より。関平劉封二人ちどり出推たゝして
おれと縛る。玄徳大ゝ怒て曰くゝまと劉璋とへ兄弟の交
ちると。汝ホちゝゝとて害せんと計るぞ龐統ともゝち其懐とき
ゝゝ志むるゝ劉封二人ゝ懐の内より。短き剣と取出と。玄徳
猶豫して。おまと殺とゝ志のひゝゝけまべ龐統色と変ゝて曰く。
志の二人とでゝゝゝ君と殺さんと計る罪宥ーゝたゝとて引出
して。首と刎させけり。黄忠魏延その手勢。二百人とゝつゝく。
縛りて出ーけまべ玄徳ゝゝゝゝ。縄と解て酒と賜ひ楊懐高

沛。ゝぶ兄弟の間と妨げ害ー。今懐ゝ剣と蔵ーて。まゝと殺ん
と計るおれゝゝゝて首と刎て。罪と正と本ゝ汝ホゝゝ志まゝゝ
ゝゝゝゝゝの故ゝ命と扶るぞとゝひゝゝ人と皆地ゝ拝ーて。ちどり
喜ぶ龐統ゝゝゝゝゝゝ今夜汝ホと案内者とーて涪水関と
乗取ん功成べゝゝゝゝゝゝ重く恩賞せん。諸人とゝゝ喜んで同
ドけまべ龐統その夜。二百人の生取と。先ゝ打せ。関前ゝいた
りて。早ゝ門とひらけと。呼つらせけまべ城中のゝのども。味方
回りぬとゝてゝゝゝゝ門とひらくゝ。玄徳の大勢一擁ーて乱れ
入ゝ。刃ゝ血ぬらぬゝて。涪城と乗取けまべ蜀の兵とゝぐゝ降
人とゝゝ玄徳重く恩賞とわどゝゝ。前後ゝ分て。要害と守
せ。次の日。酒宴と設て。諸軍とやとゝ。半酣ゝ至て。玄徳

玄德
揚懷
高沛
玄德と害ん〻して
却て身を亡す

關平
劉封
揚懷
高沛

前後もわらず。醉ひ龐統と顧て。今日の會へ樂しうらずや
といひ人び龐統答て曰く。人の国を取て。樂とするは仁者の兵
なあらぬ。玄德おもてときいて。大ぃに怒り。むゝ武王は紂を伐て。
先ぇ歌ひ。後ぇ舞ひ人りおもて仁者の兵なあらぬとや汝が言皆
道理ぇ合ぬ早く退けとて追立ぇ人を龐統全く怕るゝ色
もなく。大ぇ笑ひて退出せ。左右のものも玄德と扶けて即ち
後堂ぇ入ぇ。やゝ〳〵四更の比ぇ至て。醉さめぇ醒けぇ。
ぇ龐統を追立ぇ人りといふを玄德おどろいて後悔しきうぇ衣
をあらためて堂上ぇ出龐統を呼ぇ向ぇ酒ぇ醉て覺を
先生を逐出せりといひぇ人を龐統笑ひ談じて耳きろぎるゞ
ぬ〳〵。玄德うを招て。さきぇ人る覺を。醉ぇ乘じて。言を誤る。

幸ぇ人ぇ掛ぇよといひぇひぇ龐統ヤけるぇ君臣とふぇ醉
て。言を失るちぇんぞ君ひとりちゝらんとて。二人手を打て大ぇ笑ふ

黄忠魏延大争功

去程ぇ玄德計を設けて。楊懷高沛を殺し。涪城をぞぇ降り
ぬと。聞ぬ。ぇ成都の中。上を下へと周章て。劉璋大ぇおどろき。
料らざりき今日果して。此のごとくなるべぇ。あらんとは。文
武の大將と。計を議す。諸將ぇ曰く某ぇ孤ぶつくを夜を日
ぇ継ぎて。せむひ雒縣の要害を固めて。咽喉の殺所を塞ぎ
玄德いかぇ攻るとも容易ぇ通しぇぬぞ。劉璋おれぇ。ぇがひ。
劉璝冷苞張任鄧賢四人ぇ五万余騎をきして。ぇ進んで。
雒縣を守らしむ。四將ぇとぞぇ打起んともるとき。劉璝ぇ

るべしとて錦屏山の中に一人の道士あり。名を紫虚上人と号す。あらゆる人の生死貴賤を知ると。吾ホいま軍を出す。軍勢を先にさしてすゝめ行べし。山中に入て此の人にあひて。吉凶を問へ。張任が曰く大丈夫の士兵を起して。敵にむかふ豈山野の人に吉凶を問ふ。劉璝が曰く志りとい人ども。聖人も禍福将至善必先知之不善必先知之と宣るり。まゝ。ホいま高明の人にあひて。凶を避て吉に移る。又善らざやと。四人とも五六十騎を志たがへて。の山に行て樵夫にあひて。尋ね問へ。あまたある山の絶頂ありと教へ。四人ひとしく山に上こゝ一所の菴に至けれ。内に童子一人坐て。姓名を通じ。引て上人に見しむ。上人蒲團の上に坐しけれ。四人の大将再拜して行末のことを問へ。紫虚上人ヤ曰ける。汝ら六人ハ山中の老人ぞ。人の吉凶を知へ。劉璝再三求め問へ。上人童子を呼で紙筆をとりよせ。八句の語を書て劉璝に授け早く回の人といふ。その文に曰く

左龍右鳳　飛入西川
雛鳳墜地　卧龍升天
一得一失　天数如然
宜歸正道　勿喪九泉

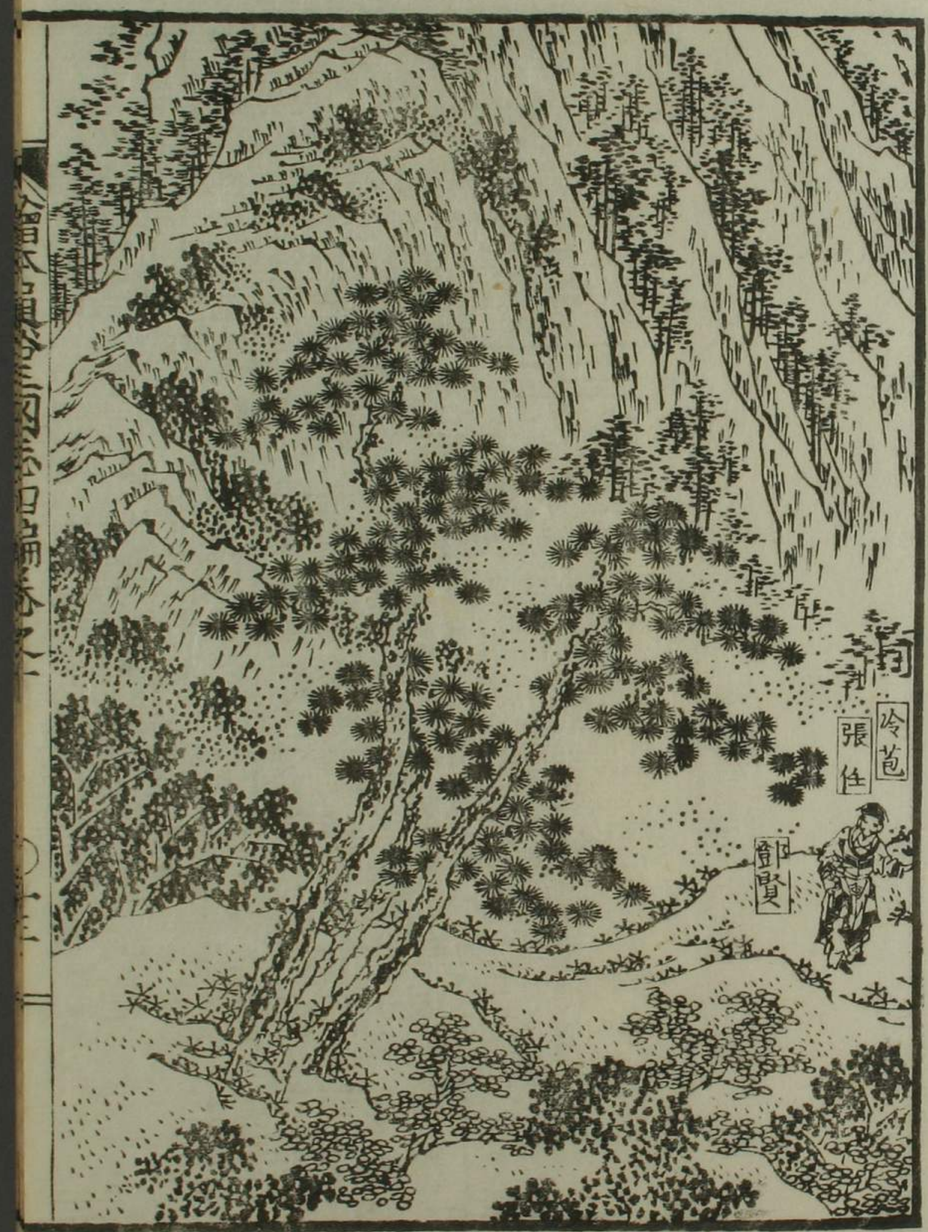
劉璝又問て曰く。ホ四人の気数いかゝ。上人答て曰く。定業へ逃れ難ぶたゝ。再び問て曰く。劉璝ハ死人の坐せるが目を塞で已に息たえ。死人の坐せるがごとくなりけれ。四人卒に山を下りぬ。劉璝ヤ曰ける。上人の言語ごとくなれば。張任笑ひて曰ける。これ狂人なり。人ぞ用ふる足人とて。馬を早やて。雒縣に到り。勢を分て。諸所の要害を守らしむる。劉璝ヤ曰ける。まの雒

城いまだ國第一の要害なり。もし破られぬべし成都も又たもつまじ。破れんまま示四人公道をもつて計と議せば。二人いまの城を固く守り。二人い前ちる山を出さ。難所をたどり敵を城へ寄しむべからず。冷芭鄧賢申けるは。某二人行き守らん劉璝大いに喜び酒宴を設けて持成二万余騎を分て與けるべし。二人城を五十里ばかり山を出て陣を取劉璝張任い雒城を固く守る。玄德いまだ涪城を取ずして龐統と雒城を取の計を議しまつる。勿心ち斥候の兵走り来りいま成都より。冷芭鄧賢二万余騎をもて進み来り。城を阻ること五十里ばかりまして大なる陣屋を構へと報ず玄德の曰く。たまら行て。冷芭鄧賢が陣を攻ん老将黄忠が曰く某孫ぐくを行ん。玄德の曰く。老将軍ぐんら行てもし冷芭鄧賢

が陣を破らば。おもと第一の功なるらん。黄忠大いに喜び兵を引て出んとする。一人ちくこを出て曰く。老将軍い年をとりて高ておもと破りまつとあたるまじ。某孫ぐくを行て破らん。玄德おもとを足多を大将魏延なり。黄忠が曰く。おもと已が君の命を受たりしを御辺おんぞおれを望める。魏延が曰く。老たるものい血気衰へ筋骨弱し。おもきまく。冷芭鄧賢い蜀の名将なりしを大力なりと恐れ老将軍。おれい敵なるを叶まじ。おもくるときい君の大事を誤るなり。おもきおのれへ。換らんといふ。黄忠怒りて曰く。汝ぐが年の老たるをあざむく。今おもを分明に武藝を較べん。魏延が曰く。孫ぐくを。君の御前にて勝負を決せん。黄忠走りて堂を下り兵の持たる刀をとりて来りけるを玄德きこしめ推止て曰くおれいなるを

とゝまるべし。今大軍を起して蜀を取らんに全く汝二人が力を頼む。今も両虎ともに闘つぐらるゝ一人は傷を得ん。必ず爭ひとまるとらるゝあらん。龐統は冷芭鄧賢左右に分れて。陣を取汝二人も二手に分れておのゝ攻め早く敵を破るものを第一の功とせん。黄忠魏延領兼して出けるに龐統又玄德に申けるは。おの〳〵二人ゝ為らば途中にて爭て仕らん。君こゝに兵を引て後陣を備へ給へ。玄德げにもとて。龐統を止めて。涪城を守らせ。こゝに劉封関平と。五千余騎を引て。打出る。黄忠は先ぶ陣を回りて。手下の勢を下知を傳へ今夜の四更に兵粮を使て。五更に打起夜の明方に攻らん。左の山路より進むべしと。時刻を待。魏延は人の内に今日の合戰に人より先を

蒐て。一人が功名をせんとおもひ兵を密に忍て入て。黄忠が打立時刻を伺ひ。きうきむる。今夜の四更に兵粮を使て。五更に打起ひとやらて。魏延大に喜び。手下の勢に下知とるゝ。二更に兵粮を使ひ。三更に打起んとて。元来黄忠と。魏延と玄德の前にて。約を定め。黄忠は冷芭が陣をむらひ。魏延は鄧賢が陣をむらゝゝとも涪城の前にて。勢を揃へて。打起んとはひけるが。その夜の三更に魏延きうきむる人をもらすまじ。馬は鈴を收め人は枚を含で。旗を捲武具を藏して。忠のびやうに打起半途に出て。おもひけるは。今鄧賢が陣一刀にて破りたまへとて。さまで功とせるに足ぬ。冷芭が陣を破りて。次に鄧賢が陣をむらひ。二ツ和の陣を攻取て。黄忠に辱とあらんと。俄に下知をして。左の山路


冷苞
張任
劉璝

劉璝
四將錦屏山の道士ふきつけ
紫虛上人
劉璝

より進む。夜の明方に冷苞が陣に近付て旗と揚武具と揃へけ
れば蜀の伏勢かと思ひて付て速に本陣に報ず。冷苞これを聞て。
兵を備へて相待ける。魏延をでに寄来りしに一声鉄炮をひら
と程こそあれ。蜀の兵勢ひに乗て討て出たり。魏延刀を舞し
て。冷苞と三十余合戰ふ。後より蜀の伏勢。又荒りければ。
魏延前後に度を失ひ。さんぐに逃走る。蜀の勢勝に乗
して。追ふけ。五六里ばかり来りける。山際に鼓の声地を揺
して。又蜀の大将鄧賢兵を引て馳来り。魏延快く降参せよ
とよばわり。喊を造て。荒たりしに。魏延大に驚き周章さ
まで。走りけるが乗たる馬前足を折て。地上に倒れければ。
きつと起上らんとする。鄧賢鎗をひ拉て走り荒るを。

やがて討とぬと。追ひける。矢一ツ来りて。鄧賢が馬より下に射く
落す。冷苞あまたを伐て又魏延と伐ん。とせし間もなく荒る和
に。一人の大将山の後より馬を飛して。せ来り老将黄忠なり
ありしが。よばわりて。冷苞に討て荒る。冷苞かどろひてさんぐに走
けるを。黄忠が。鄧賢が首を取。又勢ひに乗て追荒る冷苞
あまりに追れて。引回し。十合あまり。戰ひけるを。敵の大勢かと
りければ。本陣へも入とあたふ。さんく敗れて。鄧賢がかの人
たる。陣中に入んとすれば。これ旗風にひるがへりて。一人の
大将錦の袍を著て。金の盔をいさぎよく。真先に来る。冷苞
ちどろひて。此とこそ。おれ乃ち劉玄德なり。左に劉封右に関
平。とぞ。あの陣を奪ひ取て。勢ひに乗て。討て荒る。冷苞前

後に路ちく山中に逃入りて。雒城へ入らんとすれども。両方の谷より伏兵ひとしく起り。熊手とりて。冷苞を馬より倒し引落し。押へて縄をうけたりけるに。元来魏延ぬけがまをして。軍法を犯せの。そもらざ。多く兵を損ひけるその罪を補ひ為に。蜀の兵を案内者として。早くこの和に侍たるもの。玄徳勝軍を収て本陣に回りて人を降人に出すべの其枚をきらざ。ことあり。恩賞を賜ひけるに。蜀の兵よりこれで地に拝して。玄徳又生取を放して。汝ホこそ父母妻子の悲めるあらん。降らんと。孫が人をのへ味方に用ひて。軍勢に充ん回らんと云へば。放して回さんと云へば。軍民ことに恩を感じて。歓ぶ声地を動すに。黄忠ことに生魏延軍法を犯せり。速に首を刎ねよ。玄徳おのれ。魏

延をよび生しめ。冷苞を縛して来る。玄徳の曰く。汝ことでに。軍法を破るといへども。冷苞を生取し功あり。ことをもて罪を補へべし。黄忠矢を放して。鄧賢を射殺し。汝が危を救へたまべこの恩を謝せよと。宣へ。魏延頓首して罪に伏し。地の上に。再拝しければ。玄徳あり。黄忠を賞し。成都を取て後の功を報ぜべしとて。次に冷苞を引出して。その縄をとき。酒をのませて。問て曰く。汝いまこの降らん。冷苞が曰く。ことでに活命の恩を被る。手降参せざるべき。雒城を守る。劉璝張任とは。もの頃の其と生死の交をなす。もし御宥あらば。其行て降参させ。城を開て献らん。玄徳大に喜び。衣服鞍馬を賜ひ。魏延諫て曰く。ことまこの詐ならん。放しのことなれば。玄

德の曰く。玄德常に仁義を主として。人に對せば一回らざるを。されば彼ぶ人の誠あらざるべきを。編ざるを。おろかなりとて卒に。冷苞を放ちぬ。冷苞雒城に入て。劉璝張任に見へ。既に已に敵に生取れらども。番兵十人あまりを切殺し。馬を奪て逃れ来りといひければ。劉璝張任いそぎ成都へ早馬を打て援兵を求む。劉璋まの早馬に仰天。文武の大將をあつめて。いかゞせんと議しけるに。一人まづ進み出て曰く。某孫ぐくを行て雒城を守らん。諸人おもてをみるに。劉璋が嫡子。劉循なり。劉璋喜び曰く。汝子行んとなれば。男の吳懿を伴ひ別に副將とせたゞ行べし。吳懿が曰く。某孫ぐくを。劉循を扶けて。吳蘭雷同二人を副將とせん。劉璋ともに從ひ二万余騎を。あたへけるに卒にまた。雒城に到る。劉璝張任相迎て合戦の様を語りければ吳懿が曰く。敵の勢をみて城下に臨り。汝ホいろ。ちろ計らあらふ。冷苞が曰く。雒城の前に敵ハ構たる陣屋あり。涪江に沿て地形きわめて卑し。今幸に江水をたゝへ盛ちれば。ひそかに五千の兵をもつて。夜中に涪江の水を決り。敵の陣を水攻にせん。吳懿が曰く。敵に推せらるゝ已前に早くおもてを用べしとて。兵の手分を定め。鋤鍬を用意して。日の暮を相待けり

落鳳坡乱箭射龐統

玄德ハ。敵の二の所に構たる陣屋を奪て。黄忠魏延をまれを守らせ。ぶ〻から涪城に回りまひけるに。忽ち細作来りて。ぶけるハ。さの比吳の孫權使として。漢中の張魯と好をむすび早

く。兵を起して葭萌関を攻よ。又呉の勢を起して相援んといふゝ。張魯おれを力を得て葭萌関を攻らゝ。玄徳大ゝおどろきて葭萌関を破らるゝときは荆州の路絶んすまし。進退きはまる谷れりといひて人ゝ龐統をまねき。孟達を呼でいはく。御辺はこの國をだちてよく地理をまつりゆへ行て葭萌関を守りゆへ。孟達が曰く某はふたゝび一人ときめてもゝ行人はこの人は本荆州ありて劉表が中郎将たり南郡枝江の人ゝ霍峻字は仲邈といふものゝこの人を用ひるべし万ゝも失はじ。玄徳喜び即時ゝ霍峻を用ひて孟達とゝもゝ葭萌関を守らしめゝ。孟達退ひて。すぐ陣ゝ回りけるゝ門を守るものゝ走来り。一人の客ありとゝて龐統生むゝて。ゝを見るゝ身の長八尺あまりゝて。形ちはいと雄偉ゝ髪短くして。頸ゝ垂衣服をとゝ。とのゝたゞ怪しげるゝ体ゝりけるゝ先生は何人ぞと問ゝその人ものゝも云ず。直ゝ正面の大床ゝ上りて。仰ゝ卧て。龐統をかたゞ疑ひいらるゝ人ぞと問ゝその人答て曰く。汝よく客を敬ふの礼を尽せ。そのゝちゝ天下の大事を説ん。龐統ゝきいてきうゝ酒食をもてもてなせ。その人起上りて飲食ひとゝ辞とゝ。ゝるゝ。ゝゝ飽て又眠る。龐統ゝあやまゝて安らゝ。もゝ敵の計ちるゝらんとていそぎ法正とよぶ法正直ちゝ来りけるゝ。龐統が曰く。いま一人此のごときものゝありぬるゝ人ぞ。法正が曰く。これ定めて永年とらんものゝ某行てこゝろゝ。堂ゝ上りて。對面しけるゝ。その人きゝゝ起上り。手を拍て大ゝ

龐統
彭義

彭義
玄德の
蜀の地理と
解く

笑人龐統問て曰く。汝れ何人ぞ。法正が曰く。吾の人は廣漢より生て彭義字は永年とて。蜀中の名士と。劉璋を強く諫めし人劉璋怒りて。その髪を切官を剥て奴とす。龐統つくづくと敬ひければ彭義申けるは。汝は今日来る。汝は万人の命を救ふ。やうり。玄徳を見て直ちに直ちに云ふ。法正きゝて。玄徳を報ドけまへ。玄徳對面して。その旨を問ふ。彭義が曰く。雒城の前ちる。二ろ所の陣は君の勢多くありや。玄徳の曰く。黄忠魏延はまて守る。彭義が曰く。凡そ大将たるの道は地理を察せをんぞあるべからず。前なる陣屋は地形きはめて低く。その上は涪江の流れ。ありゝ。はの水と塞うけて。前後より攻来るべ。一人も助るものあるべからず。玄徳悟りて。げにもと愕きうけまて。彭

義申けるは。星西方にありて。太白星はの地に臨り不吉の象天文に顕はる。用心志なきんべ尽く亡びん。玄徳大によろこびとれいち。彭義を拝して。幕賓とし。びそうに人を遣して黄忠魏延はの由を告ちらせ。水を拒ぐの用意をなさしめよ。黄忠魏延はれを聞て。二人一日代りに巡見して敵来べ互いに相通ぜんとて。少も怠らず用心す。ある夜雨風をげしく起りけれべ。蜀の大将冷苞ぞれを待ちうけて。自五千余人の兵を率して。鋤鍬をやたせ。吉のびやうに涪江の岸に到り。水を決りてそゝぎうけんとする。思ひもよらぬ後より。喊の声きこえけまへ。初は敵に用心ありとてきうに退ろ人ときこゑる。魏延が伏兵前後より起りてさんぐに攻破る。冷苞天

ひゐ驚き。路を奪て逃んとせけるが。魏延あゐて。卒を生取る。蜀の大將呉蘭雷同されを救ひんとて。生けまゐ又黄忠を生あゐ法たゝ討れて逃るへる。魏延ときを。冷苞を縛りて。涪城に至りけまゐ玄德責て宜ひけるゐまゐ仁義をもりて。汝を宥さゐ。却て詐をもりてまゐを欺く。今い放しがたしと。卒に冷苞を誅戮し。重く魏延を賞して。酒宴を設け。彭義を招く持成をゐ。忽ち荆州より。馬良来れりとやを。玄德よび入て對面しゐ。馬良申けるい荆州ハ益平安なり。君御心を安んじゐとて。孔明が書簡を呈す。玄德ひらきゐ。初に荆州の無事なるゐを書て。某夜天文を考へて。太乙の数をえるに。今年歳癸の巳に次て。豎星西方にあり。

又乾の象を觀るに。太白星維城の分に臨んで。君の大將の身の上。凶多くして吉少し。宜くされを慎まんとありけまゐ玄德。了て。馬良を荆州に回し。直に孔明にあゐてさのゐを。議せんといひゐに龐統ときいそくゐおひけるい是ハ定めて。孔明ハ蜀を取て大功を立んとて。如此のごとく企る者なるらん。ゐ命ハ天にあり。豈人にあらんやとて。卒に玄德にゐんとやけるい君ゐんで。孔明の書簡に御心を惑しゐゐで某も亦天文を考へられ。太乙の数を考へゐ。豎星西方にあるい君の蜀を取ゐを應ぜ。ゐの味方の凶ならんや。太白星の維城に臨やゐを。蜀の大將冷苞を誅せゐを應ぜ。君とまゐも疑ひゐゐで速に兵をおこしやゐ人として。再三おいて勸けまゐ玄德にゐまゐに從ひ自ら涪

城を出て黄忠魏延が陣へ向きの龐統と成るに法正と
よびかれり雒城へむかふへ路いく程ありと問へ法正繪図へ
写して献る玄德さきへ張松が遺れる図本とゆへて考へへ
へ毫髪も差違へし法正が曰く山の北へ一川の大道あり此れ雒
城の東門へ通ず又山の南へ一川の小径あり此れ雒城の西
門へ通ず此れより兵を二くやへ龐統と成るに魏延と先手と
して南の細路へ進ませ後陣へ続くとて玄德へむかひて
申けるは君は黄忠と先手として北なる大路より進ませ
雒城へ出合はは玄德の曰くまづ幼少より弓馬へ熟して
多く険難の路へ経たり先生大路より進ませ小路より
向へ龐統が曰く大路へ敵の大勢守へ君へ向ひ

山路の方は険と頼んで敵も定て油断なし某へ向て
うらぶとくまんとと玄德の曰くまづ昨夜の夢へ怪げなる神人
来り手へ鉄の棒を持てまづ右の臂を打とたちまち夢醒
て今へ痛あり今日の軍は墓々しからず龐統が曰く壮士臨
陣不死則帯傷と云へり此へ人へ由なき夢とゆへて御心を
惑しまるべ玄德の曰くまづ疑へ孔明が書簡あり先生回
てたく涪城を守りへ龐統大へ笑ひて曰く君いかれば孔明
へ惑されるべ某が功を立んとて姫へ君の御心を疑へむ
るとのあり此へ疑へ時へ必ず要となる何の妨あるべき某命を
弃て君の恩を報ぜんとて諸軍へ下知して傳く五更へ兵粮を使
ひ夜の明方へ打起とて黄忠魏延と先手へ進けるに玄

德龍統と左右に分れて打起の鬨を作す龍統が乘たる馬俄に眼をくらませて跑上り前足を折けるに龍統倒れ地上に落玄德いそぎ扶起して軍師いかゞあらんの悪き馬に乘のるとて問ふに龍統が曰く此の馬久しく乘ひとも卒に乘ひなど玄德の曰く陣に臨んで此のごとくなるときは必ず人の命を誤らん予乘る所の白馬いとよく乘馴て失あるまじ軍師これを乘へしまことにいかゞ其の馬を乘ん龍統拜謝して深く君の厚恩を感ず万死とも報ぶたてまつる左右に分れて玄德遥に龍統を送りたまの内快々として喜べど大路の方をむかひて進ませ給ひ維城に呉懿劉璝ホ冷苞が計きたる由をきいそぎ殘しけるに張任ハ城の東に

る山に南に一筋の細路ありて第一の要害なり其一軍を引てこれを守らん諸將ともよく山城を固めて手分を定むるなり午候の兵走り来り敵二手に備へ給ふと聞て張任これを聞て三千の射手を揃て細路の上なる山の頂に伏て敵を来ると伺ひ居る魏延先手の兵を引て通りすぎたるなり後陣の勢に白き馬に乘たる大將あり玄德なりけり白き馬に乘れと羨のぶり〳〵かるるとぞ喜び遥に諸軍に下知をなし軍中白き馬に乘たるものを射取とて忽に勇を躍りてこれを待ときに夏の末にて暑気堪がたきに龍統兵をひきて險阻を上り行先の樣を見るに両方の山高く聳て樹木を枝を交へ路條いとく險

龐統命を落鳳坡に縮ひ

龐統

りけるべくんの内深く疑ひ馬と住て志の不へいうちする地ぞと問ふ
あらたゞ降参の兵あり。答てやりける此處と落鳳坡とやらん。
龐統大ゝ驚き。ゝ道号て鳳雛といふ志の不落鳳坡とい
ふが命の終るべきぞや。後陣より早く退けと下知する山
の上ゝ梆子をひらと程こそあれ四方より射下す矢雨ふりも
志げく偏ゝ白き馬と望んで射たりしべ憐むべし龐統乱
箭の下ゝ死して射立たる矢い柴のごとくきゝ年三十六歳ゝ
昔南方の小兒の謡ゝ
一鳳兵一龍相將到蜀中纔到半路裏鳳死落
坡東風送雨雨隨風降漢興時蜀道通蜀道通
時只有龍

と謡ひしいよくも今日ゝ相應ぜりゝとのとき張任とでゝ龐統と
射殺しゝ勢ひゝの内て切て蒐りけるに大將と討ゝてちりしに林
べき乱れ騒ぐ走りしぶ助るものぞちりける魏延ゝ進ゝ先ゝ
進をけるぶ跡ゝ軍ありときいそきうゝ取て返さんとされば張任
大勢ゝて路と塞ぎ山の上ゝ走り散りて兩の降ごく矢と放
志のゆへゝ前ゝ進んとすれば岩礫て上るとあたくなど。進退谷つ
ていぶぞせんと躁けるに降参の士卒告て曰く。たゞ雒城の前ゝ坐
て大路より回りゆゝ魏延げゝもとてぶりら先ゝ進で路と開
き已ゝ雒城ゝ近付けるゝ馬烟天と掩ゝ蜀の大將吳蘭雷
同生手とりに攻蒐る魏延是非なく只討死せよとよばゝて
火出る程ゝ戦ゝあゝ後より張任又追来り夾んで攻けるに

魏延力疲て出るとあたるまでに已に荒きわを忽然として呉蘭雷同ぶ勢ひこれ後より逃走る魏延されを力と得て勇奴振て囲を出けるに一人刀を横ひて馬を躍せ黄忠あらはきたりて汝を救とよばりとりを力を合せて呉蘭雷同を追討を攻破り。維城の下を追詰けるに城の内より劉璝兵を引て討て出けると。玄徳後より来りてこれを拒ぎ黄忠魏延を救て引へ〜の人べ張任又うたつらの小徑より討てきり劉璝呉蘭雷同ホこを一手をるりて追来る。玄徳志べ〜支さく戦ひの人ども力疲れて拒ぐとあたはず。二ろ和の陣屋とも打棄涪城をこ〜へ走りをるを敵大勢をてきそひ蒐る。張任とを火急を追駈玄徳を生取んと進むをる涪城の内より劉封関平三万余騎奴

引て討て出又蜀の兵を。討破り。二十里あまり追うけ馬物乃具を。奪ひとられを。奪ひ来る。玄徳城中を入りて。龐統が消息を。尋ねるを落鳳坡より。逃れ来るものあり。軍師の人馬をも。坡の前をて。射よろをを人りとやを。玄徳大を哭き。西を。のぞんで。涙をあぶ〜遥を魂を。を祭を。をを人を聞人をを哀を哭く。黄忠やけをへを。龐統軍師をを亡びとり。蜀の勢ひをうらを虚をの人て攻来らん。早。荆州を使ををせて。孔明軍師を。を孔きを人きづらくありて。張任兵を引攻よせたりと。躁けをべ黄忠魏延討て出ん。とをると。玄徳推留て。宣ひけるは。をを今鋭気を折られて。戦ふとも。勝をあたへど。なを宜く堅く守り。孔明を来るを待て。計ををべ〜とて。即時

と書簡を封じ。関平を使とし。いそぎ荆州へ行て。孔明とも
ゆゑ〳〵緊く城を守りて。一人も出て戦ハぢ。

繪本通俗三國志四編卷之十大尾

繪本通俗三國志 五編

張飛巴郡小厳顔を釋ふ〻関羽所〻の男戦
終〻義死〻〻神霊と顯す条〻曹操の暴逆伏
皇后を害〻神醫華陀を殺〻妖霊のゝめり〻
苦死〻曹丕政をほしゐまゝに漢帝を廢〻
帝位を奪ハ玄徳蜀國を平治〻〻蜀帝〻〻
昇〻〻〻と述れ

全部十巻〻近日発兒

皇都 池田東籬亭主人悠校合

東武 葛飾戴斗亜圖

苍陽 内山蠖窟淨書

皇都 井上治兵衛刀

和漢
西洋 書籍賣捌處

群玉堂河内屋 岡田茂兵衛
大阪心齋橋博勞町角